

平成25年度全国学力・学習状況調査

< 長崎県の結果の概要 >

調査の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 実施対象

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

小学校調査...小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校調査...中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

【国語A、算数・数学A】	【国語B、算数・数学B】
<u>主として「知識」に関する問題</u> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題	<u>主として「活用」に関する問題</u> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査期日 平成25年4月24日(水)

5 調査実施校数及び児童・生徒数

(1) 実施校数 536校(調査対象者の在籍する学校の総数 537校)

(小学校:357校、中学校:180校)

インフルエンザの流行により後日実施した学校(小学校1校)

(2) 参加児童・生徒数

小学校6年生 約12,800人

中学校3年生 約12,900人

結果の概要

1 平均正答率

< 県全体（公立小・中学校、県立中・特別支援学校） >

校種	教科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本県	全国	本県	全国
小学校	国語	60.3	62.7	46.9	49.4
	算数	76.4	77.2	57.1	58.4
中学校	国語	76.1	76.4	66.6	67.4
	数学	63.2	63.7	41.3	41.5

< 県立中学校（3校）の平均 >

教科	A問題（知識）		B問題（活用）	
	本県	全国	本県	全国
国語	94.2	76.4	89.4	67.4
数学	89.5	63.7	81.4	41.5

< 参考 > 平成24年度の調査結果（公立小・中学校、県立中・特別支援学校）

校種	教科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本県	全国	本県	全国
小学校	国語	80.2～81.6	81.4～81.7	53.6～55.8	55.4～55.8
	算数	70.9～72.8	73.1～73.5	56.0～58.2	58.7～59.1
中学校	国語	74.6～75.9	75.0～75.2	63.1～64.5	63.2～63.4
	数学	61.5～63.5	62.0～62.3	50.2～52.5	49.2～49.5

抽出調査であったH24の結果は、95%信頼区間の幅のある数値で表示されている。

数値はすべて文部科学省が公表したデータによる。

2 結果の総括

小・中学校ともに、県全体の正答率が全国平均を下回っている状況にあり、結果分析に基づく、より効果的な学力向上対策を推進する必要がある。

小学校では、国語・算数ともに依然として記述を要する問題に課題が見られる。

中学校では、国語の条件作文において一定の改善が見られる。国語・数学に共通して、基礎的な学習内容の徹底を一層図る必要がある。

3 各教科の状況

各教科において改善を要する主な課題は、次のとおりである。

< 小学校 国語 >

A問題（知識）

- ・ 接続語を使って、一文を二文に書き換えること
- ・ 資料から読み取ったことを、条件に合わせて書くこと

B問題（活用）

- ・ 複数の内容を関係付けながら、自分の考えを具体的に書くこと
- ・ 二つの推薦文を読み比べて違いを捉え、内容を整理すること

< 小学校 算数 >

A問題（知識）

- ・ 単位量当たりの大きさ（混み具合）についての理解
- ・ 面積の単位（アール）についての理解

B問題（活用）

- ・ 情報を整理し、与えられた条件を基に筋道を立てて考え、判断すること
- ・ 表にある数値を適切に選択し、二つの数量の関係を説明すること

< 中学校 国語 >

A問題（知識）

- ・ 文のつながりに注意しながら、伝えたい事柄を明確にして書くこと
- ・ 比喩を用いた表現の意味理解

B問題（活用）

- ・ 課題を解決するために必要な情報の収集方法を考えること
- ・ 新聞記事の表現の特徴を捉えること

< 中学校 数学 >

A問題（知識）

- ・一次関数の表から、変化の割合を求めること
- ・身近で簡単な事象について、その確率を求めること

B問題（活用）

- ・場面を的確に捉えて、問題を解決すること
- ・事柄が成り立つ理由を説明すること

4 質問紙調査の状況（ : 良好な状況 : 改善を要する状況）

< 経年比較している重点項目について >

「授業以外の学習時間」は小・中学校ともに増え、全国平均を3～4ポイント上回っている。

「テレビゲーム（コンピュータゲーム）を2時間以上使用」の割合は全国平均を5～6ポイント下回っている。

「テレビやビデオ、DVDを2時間以上視聴」の割合は減少しているが、小学校においては一層の改善が必要。

「インターネットを2時間以上使用」の割合は全国平均より低いが、小・中学校ともに増加傾向にあるため注意が必要。

< 本県児童生徒の特徴的な状況 >

「朝7時前に起床する」「朝食を毎日食べる」割合は、共に全国平均を上回っている。

「人の気持ちが分かり、人の役に立つ人間になりたい」や「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童生徒が多い。

小学校において「1か月に5冊以上読書する」割合が高い。

「家庭で復習をする」割合は全国平均を上回っているが、一層高める必要がある。

活用問題において「解答時間が不足している」割合が高い。